

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

事業名【新】苗木生産供給体制整備事業費補助金（R7国補正）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 木質バイオマス産業係 電話番号：058-272-1111（内4386）

E-mail : c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 **7,200 千円** **(現計予算額 :** **0 千円)**

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
現計予算額	0	0	0	0	0	0	0	0
補正要求額	7,200	7,200	0	0	0	0	0	0
決定額	7,200	7,200	0	0	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

第4期岐阜県森林づくり基本計画では、現在の少子高齢化した森林の齢級構成を平準化するため、適切な伐採と再造林を奨励し、次世代へつなぐ森林資源の確保と森林の持つ公益的機能を維持していくこととしている。

再造林を進めていくため、優良苗木の安定供給体制づくりが重要であり、R6年度の苗木生産目標本数は170万本としている。（R6年度苗木生産量 83万本）

しかし、県内の苗木生産者は高齢化と減少が進んでおり、優良な苗木が確保できなくなれば森林の荒廃につながることから、苗木の生産体制を整えるとともに、持続可能な森林づくりの下支えが必要である。

苗木安定供給を進めていくため、平成27年3月に下呂林木育種事業地を活用しコンテナ苗木生産を行う事業者を公募型プロポーザルにて決定し、平成28年度に事業者が施設整備を実施。平成29年度から苗木の出荷を開始し、令和元年度には21万本、令和2年度には30万本、令和5年度には45万本、令和6年度には48万本を生産したが、100万本の生産体制を整えるためには一層の生産体制強化が必要である。

(2) 事業内容

品質の良い苗木の大量生産供給体制づくりに向け、民間が持つ生産技術の活用と、地元生産者との組織的な取り組みを進める。

このために必要となる機械等の施設整備を支援する。

(3) 県負担・補助率の考え方

森林・林業・木材産業グリーン成長総合対策補助金：国補1/2 事業者1/2

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	7,200	
合計	7,200	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画において、(1) 森林づくりの推進で苗木生産量の目標数値を設定している。

(2) 事業主体及びその妥当性

- ①事業主体：林業種苗法第10条に基づき知事が登録した苗木生産者
- 妥当性：林業用種苗の生産者としての資格を有しており妥当である。

事 業 評 價 調 書 (県単独補助金除く)

■ 新規要求事業
□ 継続要求事業

令和7年度3月補正予算

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和8年までに、品質の良い苗木200万本の生産を目指し、県内の需要はもとより、県外への出荷も視野に入れた苗木供給体制をつくる。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H26)	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①苗木生産本数 (万本)	18	79	83	170	200	55%

○指標を設定することができない場合の理由

(これまでの取組内容と成果)

令和 4 年 度	品質の良い苗木生産量の増大に向けて、各生産者が苗木生産に取り組んでいる。令和3年度に施設整備等を実施した生産者については、増設した施設を活用しさらに苗木生産量を増大させるため、幼苗の生産等に取り組んでいる。
	指標① 目標：90万本 実績：80万本 達成率： 89 %
令和 5 年 度	品質の良い苗木生産量の増大に向けて、各生産者が苗木生産に取り組んでいる。令和3年度に施設整備等を実施した生産者については、増設した施設を活用しさらに苗木生産量を増大させるため、幼苗の生産等に取り組んでいる。
	指標① 目標：120万本 実績：79万本 達成率： 66 %
令和 6 年 度	品質の良い苗木生産量の増大に向けて、各生産者が苗木生産に取り組んでいる。令和5年度には4生産者が施設を導入し、苗木生産の増大及び品質の向上に向けて効率的な苗木生産体制の整備を行った。
	指標① 目標：150万本 実績：83万本 達成率： 55 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	森林資源の高齢化が進み、森林資源の若返りの為にも、再造林の重要性は増している。確実な再造林のためにも、再造林に必要な優良な苗木を確保することは必要不可欠であり、豊かな森づくりにも資するものである。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
(評価) 2	事業開始前と比較して苗木生産本数が増大しており、安定的な苗木供給体制が図られつつある。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
(評価) 2	苗木生産者が国補助事業を活用して整備するものであり、効率的な実施が図られている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

低コストで品質の良い苗木をつくるため、新しい育苗技術であるコンテナ苗により取り組むこととしているが、設備投資に多額の費用がかかることが問題となっている。また、苗木生産は播種から出荷まで2~3年の時間がかかるため、将来の需要を見越した生産が必要である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

再造林のニーズの高まりに応えるために、将来の需要を見越した苗木の生産体制の整備が必要である。品質の良い苗木生産に取り組むことにより実績を積み重ね、林業関係者の信頼を築き、安定した苗木生産供給体制をつくることが必要と考える。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	